



県民の森 植物紹介 ③② ータニウツギ (スイカズラ科)ー



落葉して明るくなった森や林のなかで、種が弾けたあとの茶色い実が残っています。まるで花が咲いているような特徴のある実の形は、冬枯れのなかでとても目立ちます。園内の散策路はもちろん、八幡平の山や里でよく見られます。

「ウツギ」と名付けられていますが、本来の白い花が咲くウツギはアジサイ科の別の仲間。枝がウツギと同じように中空であることに由来します。「タニ」は谷間に多く生えていることからきています。

花は5～6月ごろ、小枝の先にピンクのかわいい蕾が出来て、先端が5つに裂けたラッパのような紅色の花がたくさん咲きます。とても美しい花ですが、地域によっては火事を呼ぶとも言われて、忌み嫌う風習があります。

また、材の用途として遺骨を拾う箸をタニウツギでつくったことから、葬式花などとも呼ばれています。昔は、若菜を蒸してから乾燥保存し、飢饉の際に炊いたご飯に混ぜて増量したり、焼餅の中身に入れたりして、しのぎの食糧として利用されていたそうです。

